

血液内科

《概要》

当院は日本血液学会研修施設に認定されているが平成 21 年度に常勤スタッフが 1 名と減少して以来まだ人員の補充がなされていない。外来については常勤医師 1 名に加え非常勤医師 3 名で行っており、外来化学療法や輸血も行っている。入院は主として悪性リンパ腫や骨髄腫など外来化学療法の対象となるべき患者の初回化学療法導入を行っており、当科かかりつけ患者の増悪時あるいは合併症発生時も可能な限り対応している。平成 22 年度に比べ入院患者は増加したが造血幹細胞移植を必要とする患者については他の血液専門施設へ治療を依頼しなければならない状況である。今後、人員、環境が整い次第、移植療法を再開する予定としている。

非血縁臍帯血移植、非血縁骨髄移植の認定施設としての機能も平成 21 年度より休止せざるをえなくなったが、今までの当院で実施した造血幹細胞移植患者は 319 名あり、その実績は他施設との共同の後方視的研究等に生かされており、学会や論文で発表されている。

《業績》

(1) 学会研究会報告 (2011.4~2012.3)

番号整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	PBSC is preferable as a source of salvage transplant for graft failure after allogeneic HSCT	Hiroki Hosoi, Shigeo Fuji, Fumiaki Nakamura, Shuichi Taniguchi, Maho Satoh, Shinichiro Mori, Hisashi Sakamaki, Keisei Kawa, Koji Kato, Ritsuro Suzuki, Yoshiko Atsuta, Toshiharu Tamaki, Yoshinobu Kanda	第73回日本血液学会学術集会	2011.10.14
2	Concomitant administration of liposomal amphotericin B and glycopeptide antibiotics is tolerable	Kenichi Ishiyama, Fumiaki Nakamura, Kazuo Hatanaka, Hiroki Hosoi, Shigeo Fuji, Nobuhiko Uoshima, Yuri Kamitsuji, Yasutaka Aoyama, Hiroyoshi Ichihara, Manabu Kawakami, Shinobu Tamura, Yumi Yoshii, Toshiharu Tamaki	第73回日本血液学会学術集会	2011.10.15
3	多発性骨髄腫(MM)に対する中等量メルファラン(100mg/m ² :MEL100)による自家末梢血幹細胞移植(auto-PBSCT)の有用性に関する後方視的検討	栗山幸大 畑中一生 村田祥吾 細井祐樹 島貫栄弥 田村志宣 花岡伸佳 園木孝志 中熊秀喜 玉置俊治	第34回日本造血幹細胞移植学会総会	2012.2.24
4	同種骨髄移植を施行した多発性骨髄腫症例の後方視的検討	田村志宣 畑中一生 栗山幸大 細井祐樹 村田祥吾 島貫栄弥 花岡佳伸 園木孝志 米谷 昇 中熊秀喜 玉置俊治	第34回日本造血幹細胞移植学会総会	2012.2.24